

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391500127		
法人名	(株)名東介護センター		
事業所名	グループホーム エム・ケア名東 2階ユニット		
所在地	愛知県名古屋市長東区高間町43		
自己評価作成日	平成27年1月11日	評価結果市町村受理日	平成27年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成27年2月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設して5年目に入るが職員の定着率もよく、利用者さんと馴染みの関係が作れている。毎月行っている職員会議には、多くの職員が自主的に参加しフリートークで利用者さんのケアの問題点や業務改善を話し合い、統一したケアを出来るように情報交換している。認知症・看取りケア・倫理教育等を年間計画に沿って行い、職員教育に力を入れた取り組みが開設以来続けられている。利用者さんは百人一首やトランプで楽しんだり、家事(洗濯物干し・たみ・食器拭き等)を職員と一緒にしている。できる事とできない事のアセスメントを行いさり気ない支援・声かけを心がけている。開設以来、全員の方をご家族と一緒に看取りケアにてお見送りしており、最期まで馴染みの方に囲まれて安楽に過ごせるような配慮やそのための終末期ケアの手法を職員は研修等により十分心得ている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「グループホームエム・ケア名東」は、地域の認知症の方への支援のために、小規模多機能と共に開設された2ユニットの事業所である。今年で5年を迎える。「ベビーセラピー」「アニマルセラピー」等、薬だけに頼らない柔らかいケアをモットーに、一人一人の穏やかな生活を最期の時まで支援している。「共に生活(生きる)」を理念に掲げ、「生きる」ために必要な「排泄」「食事」「入浴」「看取り」の支援を重視し「ケアプランに沿った共通のケア」(認知症ケア5つの柱)を実践している。職員の研修、勉強会に力を入れており、全員が理念を理解し修得が図れるよう、資質の向上を目指している。また、各分野に経験豊かな職員の配置があり、医療連携も整備され、家族からのホームへの信頼は厚い。いきいき支援センターとの協働や、参加しやすい配慮のある充実した運営推進会議や施設開放日の開催等、地域に密着した活動に取り組んでいる。行事、会議、勉強会の際には食事や軽食を出す等、来設する人達への心配りも欠かさない事業所であり、今後も益々の活躍が大いに期待される。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念は「共に生活する(生き生き生きる)」であり、毎月の職員会議で職員全員が意識し、話し合っている。	理念に則り「認知症ケア5つの柱」を掲げている。この基本を念頭に置いて日々ケアにあたっており、内部研修に力を入れ、職員の育成を図っている。その際施設長は、理念を研修テーマと結びつけて分かり易く説明している。理念は、新しく作成したパンフレットにも大きく明記されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア、外出先のスーパー・喫茶店・星ヶ丘三越・消防署・近所の方と交流している。地域の行事にも参加させてもらっている。	町内会に加入し、盆踊り等の町内行事に参加している。また、学区の小学校から招待を受け運動会の見学へ行っている。ホーム行事の七夕会の際には、チラシやポスターで地域の人々に宣伝し招いている。フラダンス等の地域サークルや地元高校生のボランティアの訪問が定着している。月に一度、施設開放日を設け、地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長が認知症のお年寄りについて、いきいき支援センターで講師として外部に発信している。地域の人々がいつでも相談できるよう看板やパンフレット・インターネットで発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を職員・パートが確認し、サービスの向上に活かしている。	小規模多機能と合同で、両事業所の利用者と家族代表ひと組ずつと地域代表者、いきいき支援センター職員の参加により、年に6回開催している。パワーポイントを使用したり、実際に見学してもらう等、参加者が参加しやすく理解しやすいよう、様々な工夫をしている。取り組みに対する意見や地域等の情報交換があり、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いつでも名古屋市区役所に問い合わせをし、担当者に相談、助言を頂き、密な関係を築いている。	運営推進会議開催結果を、市の指導課へFAXにて報告している。いきいき支援センターとは、催しについて、頻りに打ち合わせを行ったり、運営推進会議に当機関のセンター長の出席がある等繋がり濃く、密に連携している。職員は、市主催の外部研修等へ持ち回りで参加しており、他事業所と情報交換や事例検討を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束について研修を行っている。今までに身体拘束した利用者はいない。	年間研修計画に組み込み、1年に一度は研修を行い、また、折に触れ伝えている。研修の際には、施設長が実際に拘束の写真を用いて具体的に説明し、テスト形式で、職員へ浸透させ定着を図っている。帰宅願望のある入居者がいれば、付き添い、場所を変える等、気分転換を図っている。入居者の心地良い暮らしの実現のために、認知症ケアについて深く学び、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で伝達している。職員会議でスピーチロックについて話し合いをすることで常に意識し、業務にあたっては、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用した利用者があり、利用者について、話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が中心となり、契約について説明し、同意を得ている。家族の相談は窓口を一つにしていつでも受けていて、納得されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて運営状況の報告している。 正面玄関には意見箱の設置をしている。	面会時や電話にて、家族意見を聴取している。現場で状況把握している担当職員が直接対応する場合もある。年に1度、家族へアンケート調査をしている。入居者の体調変化時等、家族へは早めに連絡しており、外部評価家族アンケート結果にも、「すぐに連絡くれる」「柔軟に対応してくれる」等安心の声がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議でフリートークを設け、職員の意見や提案を聞き、話し合いをしている。	月に一度の職員会議は、職員同士が自由に話し合える形で、情報共有や意思疎通を図っている。研修や勉強会は、施設長が日ごろから収集している最新の情報を提供して行っており、開催の折には、食事を出す等、職員を大切にし、風通しの良い職場環境づくりに努めている。日常的な意見等は、口頭で聴取したり、申し送りノートを活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の施設内研修には会社よりお弁当が出ており、年末年始に出勤した職員には特別手当が出ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会主催する研修等に参加している。研修を受け、施設内研修にて伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議、開放日のポスター配り等で関わり情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を利用し、日々の記録を行い、アセスメントし、ケアプランに反映している。ケアプランは職員全員が理解している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式を利用しながら、家族の話を聞き、説明と提案を管理者中心に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に施設長中心に話し合い、利用開始してからも家族へ利用者の状況を報告している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事を行ったり、百人一首で一緒に遊んだり、おしゃべりをして過ごしたり、業務だけではなく、ゆとりのある生活を心がけている。アニマルセラピーとして猫を飼ったり、職員の赤ちゃんと遊んだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊には協力して行っている。介助方法を家族に説明し、楽しい外出、外泊となるよう協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	よく行っていた星ヶ丘三越の買い物を継続して行っている。 花が好きな利用者と散歩に出かけたりしている。	買い物が好きな入居者とデパートやコンビニ等へ行ったり、喫茶店や、以前住んでいた土地へドライブに行く等、個別に支援している。絵手紙を作成し家族へ送ったり、年賀状支援をしている。また、他ユニットや併設小規模多機能利用者と馴染みの関係が出来ており、自由に交流できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で食事をする席の配置を決めている。日中も百人一首やトランプを楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で看取りを行った利用者の通夜・告別式に参列させて頂いている。 サービスを終了しても家族より手紙を頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、日々の記録をアセスメントし、ケアプランに反映している。	入居者が、いつも居心地良く、気分良く暮らせるよう、センター方式を活用し、個々の心身の状況の把握と、それに合った生活の提供に努めている。また、日々の変化を察知し気づきを得、入居者の思いを汲み取ることが出来る職員の育成に力を入れている。会議でのフリートークで、職員間の情報共有とケアの統一を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、家族や本人から聞き取りをし、今までの生活を継続できるよう努め、新聞を読むことが日課になっている利用者には新聞を毎日読めるように手配している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を利用し、入浴、食事、排泄や24時間の本人の様子を記録し、全職員が把握してから現場に入っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回、本人、家族、計画作成者、職員でサービス担当者会議を開催して、話し合いケアプランを作成している。	毎月モニタリングを行い、基本半年ごと及び随時に担当者会議を開催し計画の見直しを行っている。本人、家族が必ず出席し、日程は毎回家族の都合に合わせて行い、意見を取り入れている。計画に同意を得たら複写し、職員間で熟読し、入居者個々のケアを理解している。特に重要な箇所へは、赤く下線を引き、新しい情報を赤字で書き込み常に更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を利用し、日中、夜間の様子や食事排泄、入浴等の記録を残し、気づきや提案は職員会議や日々の記録に記入し、話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の日常の行動や身体状況に変化あった際は、ご家族へ報告し、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊りに参加し、又、ボランティアの慰問に来てもらい地域の方とコミュニケーションをとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師は24時間体制で対応している。日々の身体状況は看護師が医師に報告している。専門医にかかる時は受診に看護師や職員が付き添っている。	協力医による月に2回の訪問診療がある。また、24時間対応の体制がある。他科受診時は、主に看護師が同行し、医師の指示を仰ぎ家族へ報告している。また、看護師は、定期的な健康チェックの他、訪問診療時も立ち会い、入居者一人一人の身体状況を把握している。内部研修時の講師も務めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週4～5日勤務している為、身体状況の把握はできている。変化があれば施設長に報告し、家族へ報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とのカンファレンスに出席し、利用者の情報を伝える。密に連絡を取り合い、入院中は何度も面会へ行き、情報を得ていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設長が入所時に看取りについて指針に基づいた説明をし同意を得ている。身体状況が変化した時から密に家族と連絡をとっている。開設以来、多くの方を施設内で看取っている。	家族と、日ごろから、変化があれば早めに連絡をし、関係を築いている。終末期には、家族へ状態と今後の見通しを説明し、協力医、看護師と連携してケアに取り組んでいる。職員教育を堅実にやり、落ち着いた対応で最期まで「共に生活(いきる)」の理念に則り、皆で関わりを持って支援している。後日、会議で振り返りの機会を持ち経験を活かす取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルがあり、職員にはマニュアルに沿って行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	名東消防署、防災点検会社職員により指導を受けながら、避難訓練等、年2回行っている。AED設置し、災害時は避難所として登録している。	年2回、併設の小規模多機能ホームと合同で消防署や点検業者立ち会いの下、防災訓練を行っている。実際に自力避難が困難な利用者を背負っての避難訓練をしている。近隣住民とは、AEDの貸出有無の問い合わせがあったり、夜間非常時に協力を要請している。また、市から福祉避難所に指定されており、備蓄品も基準に合わせて、地域の分も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する声かけや呼びかけについて施設で統一している。 居室に入る時はノック、本人に声かけして入室している。	呼び名は、その入居者が認識出来る名を職員一同が統一して呼んでいる。居室入室時はノックし、排泄ケアの際には、声かけの内容や声量に注意し、プライバシーに配慮するよう研修時に意識向上を促している。気分を害さないような声かけに努め、現場で不適切な場面を見かけたら、職員間で注意し合うよう伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴はいつでも好きな時に入ってもらっている。 新聞を読むことが日課になっている利用者は新聞を購読している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	春や秋は積極的に外出やドライブを行っている。夏はおやつを外で食べたりして楽しんでいる。また馴染みの店に行き、買い物をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時はおしゃれな服を本人と選び、出かけている。起床時には整容への支援や居室の整理を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに食事指示書があり、その人に合った食事をしている。下膳や食器拭きができる利用者さんには職員の見守りのもと手伝ってもらっている。	「生きる」ことは食べることから。と、定期的に更新している食事指示書を基に、旬の新鮮な食材を温度にも配慮しながら、その時その人の心身の状態に合わせた食事を提供している。献立は料理長が立てている。時間を固定せず、その人のペースや以前からの習慣を利用して食してもらおう工夫をしている。手伝いに、一階調理場へ下りて行く入居者がいる。月に一度は、行事や季節にちなんだ特別食を実施し、個別に外食の支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式にて、日々の食事量、水分量を把握している。食事指示書にて利用者一人ずつに合った食事をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。 利用者に合わせて、出来ない利用者は介助、声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、便器で排泄できるよう、本人の様子や日々のパターンを見て、トイレ案内している。	「排泄ケア」も理念につながる基本の支援として重視し取り組んでいる。一人一人について、アセスメントを行い、現場職員が支援方法を考慮し、幹部職員の決定によりケアの統一が図られている。何故その支援なのか、その根拠を現場職員が考えることでケアの質を高めている。排泄は全ての健康状態の把握に通じると、状態観察を徹底し、看護師へ報告をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	センター方式を利用し、排尿、排便のチェックを行い、看護師も把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタルチェックを行い、いつでも入りたい時にお風呂に入れるようにしている。	入浴の順序や時間帯、回数等、希望に添って自由に入ってもらっている。入浴を拒む入居者へは、声かけを工夫したり、顔馴染みの職員が対応する等して働きかけしている。湯を毎回張り替え快適に、また、季節湯や温泉の素で楽しんでもらっている。寝付けない入居者へは足浴を行っている。重度化していたり、終末期の入居者への支援も、看護師の指示の下、行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	TVを見たり、ラジオや音楽を聴きながら休んだりしている。週1回以上はシーツ交換を行い、居室を清潔にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より薬の説明を受け、薬は看護師管理している。 服薬時には飲み込みの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな百人一首やカードゲームを行ったり、洗濯物干したたみを行っている。 できる家事は職員と一緒にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出の際には準備に協力している。 地域の盆踊りや桜の花見に行ったり、気候がいい時はドライブや散歩に出かけている。	天候の良い季節には、毎日散歩に出たり、ドライブしている。併設の小規模多機能ホームの送迎に便乗して景色を見に出る入居者もいる。花見や紅葉狩りに出かけ、帰りに喫茶店へ寄ったり、また、初詣へ行く等している。外出が難しい入居者へ屋上やピロティを利用し外気浴をしている。個別で、喫茶店や三越の外食(うなぎ等)へ希望により行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている利用者は外出時、好きな物を自分の財布からお金を出し、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人から手紙が届くと返信の手紙を送れる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけをしている。 旬な食べ物を食べてもらっている。 アニマルセラピーとして猫を飼い、利用者の癒しになっている。	掃除が毎日行われ清潔が保たれている。換気を、冬でも季節を問わず、時間を決めて行っている。床暖房により共用部全体が暖められており、テレビ周りのソファスペースは寛げる空間がある。訪問調査当日も、入居者が、各々穏やかに昼食後の時間を過ごしており、落ち着いた中での生活が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で百人一首やトランプをしたり、自分の部屋で気ままに好きなテレビを見たり、一人ひとりに合った生活をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな曲をいつでも聞けるようにCDラジカセを置き、ベッドで休みながらリラックスして休んでいる。本人好みのカーテンをつけている利用者もいる。	洗面所付きの居室であり、各居室扉は基本、開放され温度を一定に保つ工夫がされている。扉は入居者の意向により、鍵をかけることもできる。居室入口に、担当者2名の名が、来訪者にわかりやすく示されている。担当職員は、居室整備も行っている。椅子が用意されており、面会者に対する配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる利用者さんには家事(洗濯干し・たたみ・食器拭き等)を職員と一緒にやっている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム エム・ケア名東

## 目標達成計画

作成日: 平成27年4月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		職員の定着率が安定しており、ベテラン枠の職員がケアプランを元にケアを実践できる体制が整いつつある。今後も職員育成、定着率安定に会社として力を入れていきたい。	認知症ケアをよく学び実践する能力のある職員の育成を目指し、安定した職員定着によりエム・ケア名東の利用者さんが穏やかに生活・利用ができる。	・月に一回、職員会議と研修の実施の継続 ・正社員に特化した研修会等の実施	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。